

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

施設名	高松市道の駅源平の里むれ		
指定管理者	株式会社四国にぎわいネットワーク	施設所管課等	観光交流課
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所在地	香川県高松市牟礼町原631-7	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ・物産棟(物販販売、産直市、食堂、産直カフェ) ・無料休憩所 ・情報センター ・駐車場
施設の概要	【施設】木造平屋 【職員の状況】正社員 6名 パート従業員 25名 【開館時間】9時～17時 【定休日】第1・3火曜日		

	項目名	令和4年度	令和3年度	項目名	令和4年度	令和3年度
利用状況等	利用者数	238,859 人	194,933 人			
収支状況等	指定管理料	10,882 千円	24,871 千円	支出実績(税込)	108,872 千円	96,894 千円
	収入実績総額(税込)	114,735 千円	90,805 千円			
	うち事業収入	103,853 千円	65,934 千円			

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性 ②平等な利用の確保	高松市が示す管理基準については、その都度ご指導をいただきながら、その遂行に努めた。毎月1回、本社にて行う会議に管理職が出席し、管理運営に関する情報の共有を図った。会議での決定事項は、即現場にフィードバックし、運営に生かした。	A
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策 ②広報・PR対策 ③企画事業・自主事業 ④市・関係団体・地域等との連携 ⑤サービス向上の取組 ⑥相談・苦情への対応	施設の強みを最大に発揮し、事業の公共性は十分果たした。 コロナ禍からの脱却が少しずつ見えてきた中で、「地ビールまつり」「七タメロン発売」「水戸納豆まつり」「産直アート」「いか徳利に合うお酒発売」など、地域の魅力をPRするような企画・新商品開発に積極的に取り組んだ。各メディア・HP・SNS等を通じ、継続的な情報発信ができた。産直市での直仕入分の販売にはさらに注力し、特に果物を中心に集客につながる品揃えを行い、リピーター客の創出につながるよう工夫を重ねてきた。 事業の中で、本来は行政と共に検討すべき課題(防災・福祉・6次産業化等)に対する業務負担が大きくなってきている。 相談・クレームに対しては、全て真摯に対応した。	A
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等 ②教育・研修 ③就業規則等の遵守 ④施設運営の健全性の確保 ⑤損害保険等 ⑥収支計画と執行管理	継続雇用・従業員教育・スキルアップに対しては、日ごろからコツコツと積み重ねを行ってきたが、欠員分の補充はかなわず、厳しい従業員体制での運営が続いている。10月の最低賃金の引き上げが毎年大幅な額で実施され、大きな影響をうけている。 損害保険は施設規模に合わせた内容に継続して加入している。 収支については、原材料や商品の値上げラッシュ・半導体不足・水道光熱費の高騰等、厳しい1年であったが、人件費を抑制している状況が続いているということもあり、黒字決算で終えることができた。とは言え、想定を上回る物価高であり、計画とは大きなズレが生じている。	B
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費 ②運営経費の削減対策・コミュニティビジネスの視点 ③経営の効率化 ④合理的な会計制度	来客数は回復基調にあり、国の旅行支援策などの影響から、売上もある程度回復してきた1年であった。不安定な将来が見通せない状況に変わりはなく、昇給や賞与についてはまだまだ積極的な改善は実施できなかったことが課題である。また、水道光熱費の高騰・物価高の影響は非常に多岐にわたり、経営を圧迫してきている。会計制度は諸基準に基づき適正に実施している。	B

総合評価コメント	総合評価
施設の管理条例や各種マニュアルを遵守し、安全管理など適切な施設管理が行われている。観光客や地域住民がいつでも気軽に利用できる安全・安心な施設であることを目指し、施設利用者が快適に過ごせる空間づくりに努め、賑わい創出に貢献したことは高く評価でき、継続して実施することが望まれる。また、地元作家と協力し、産直アート空間を設けるなど、新たな視点から道の駅を盛り上げようとする工夫や、オリジナル商品の開発、イベント、PRも行われ、魅力ある道の駅づくりに努めた。 昨年度に比べて、少しずつ施設利用者も増加している。引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、更なる経営の効率化とともに、安心安全に利用できる施設運営を行っていただきたい。	B